

## ◆ 今週のコメント

- ・ 侵襲性インフルエンザ菌感染症の報告が1例(80歳代男性)あり、症状は発熱、肺炎、菌血症です。本年の累積報告数は6例となっています。
- ・ ヘルパンギーナの定点当たり報告数は1.98(83例)となり、前週の1.6倍に増加しました。
- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は1.00(42例)で、平成28年第1週以降、最も多い報告数となっています。

## ◆ 今週のトピックス:< Dengue熱 >

- ・ 平成26年の夏に約70年ぶりに国内感染が確認された Dengue熱について現在の国内外の状況や感染経路等をまとめました。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 2例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例  
【1月以降の累積報告数 162例(肺結核 90例, その他結核 31例, 潜在性結核感染者 41例)うち喀痰塗抹陽性44例】
- ・ 五類:侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 48例】
- ・ 五類:梅毒(早期顕症梅毒)1例【1月以降の累積報告数 14例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点42, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.98	251
	② ヘルパンギーナ	1.98	83
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.74	73
	④ 流行性耳下腺炎	1.00	42
	⑤ 手足口病	0.81	34
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

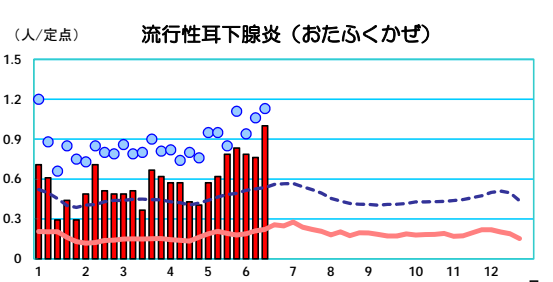
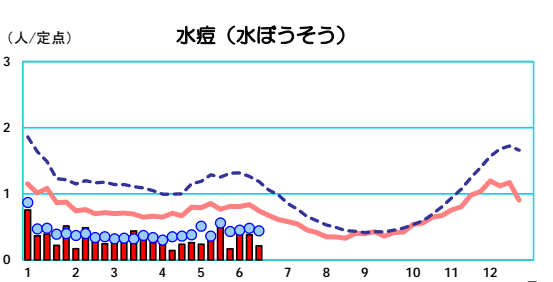
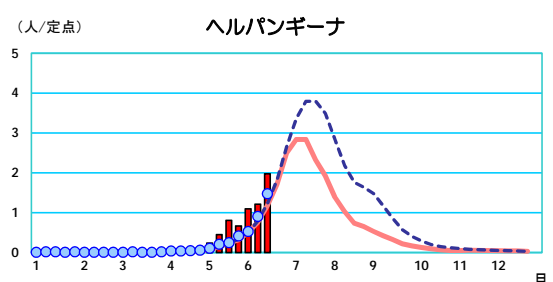
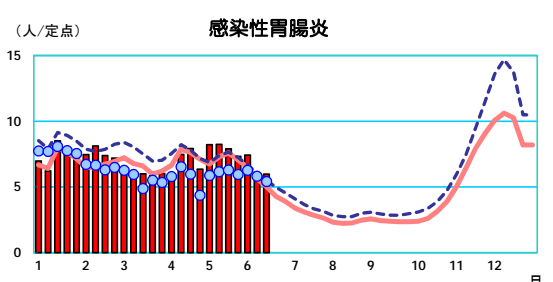
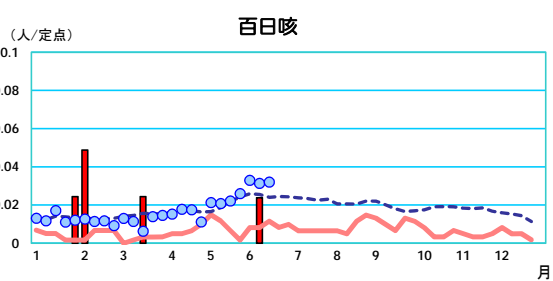
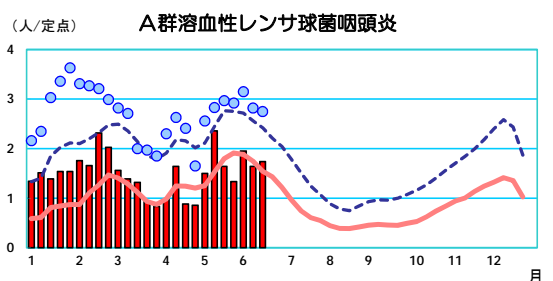
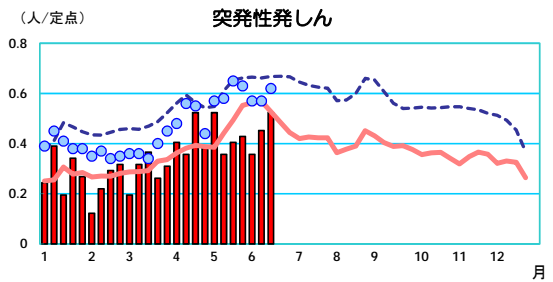
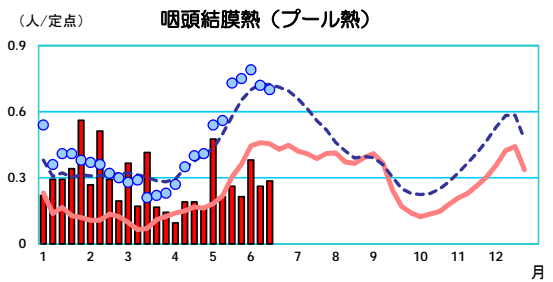
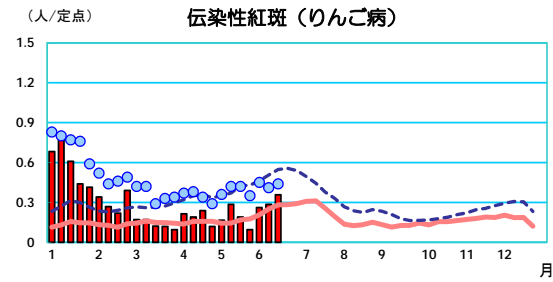
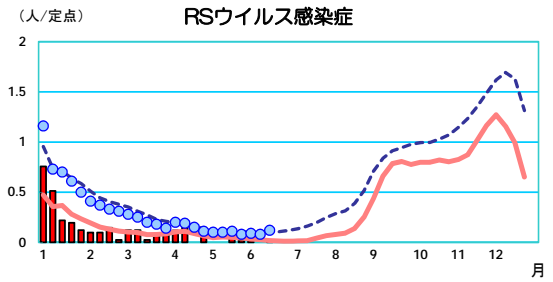
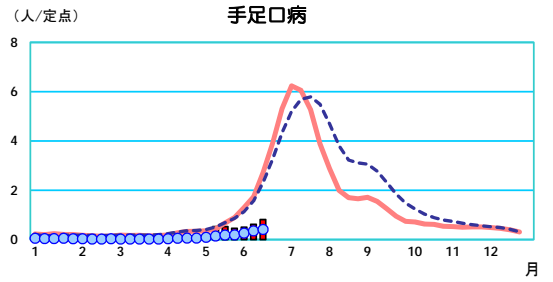
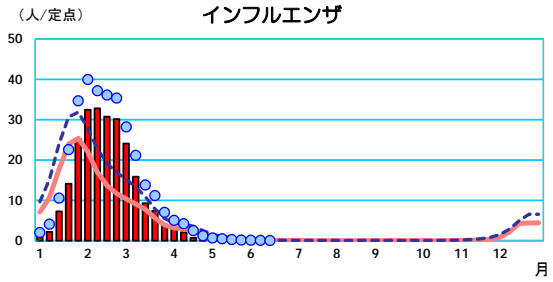
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:< Dengue熱 >

付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、平成28年6月29日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成28年）



## 第25週(6月20日～6月26日)トピックス: &lt; Dengue Fever &gt;

7月に入り、蚊がさらに活発に活動する時期になりました。そこで、平成26年の夏に約70年ぶりに国内感染が確認されたデング熱について現在の国内外の状況や感染経路等をまとめました。

## 京都市及び全国の発生動向

京都市のデング熱の報告が1例(30歳代女性)あり、推定感染地域はインドネシアです。今年の本市の累積報告数は2例、全国の累積報告数は153例で(図1)、全て海外の流行地で感染し、帰国後に発症する輸入症例です。平成26年のデング熱の報告数は341例であり、このうち162例が国内感染(※)だったことから、今後デング熱の発生動向に注意が必要です。

(※) 国立感染症研究所ホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/692-disease-based/ta/dengue/idsc/iasr-topic/5461-tpc421-j.html>)から引用(平成28年7月1日閲覧)。

## 症状及び感染経路

デング熱はデングウイルスに感染しておこる感染症で、2～14日(通常3～7日)の潜伏期間の後、急な発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、皮膚の発疹等の症状が現れます。ほとんどの場合、一週間程度で軽快します。デングウイルスは、ネッタイシマカ及びヒトスジシマカによって媒介され、ヒト-蚊-ヒトという経路で感染します。

## 主な感染地域及び予防

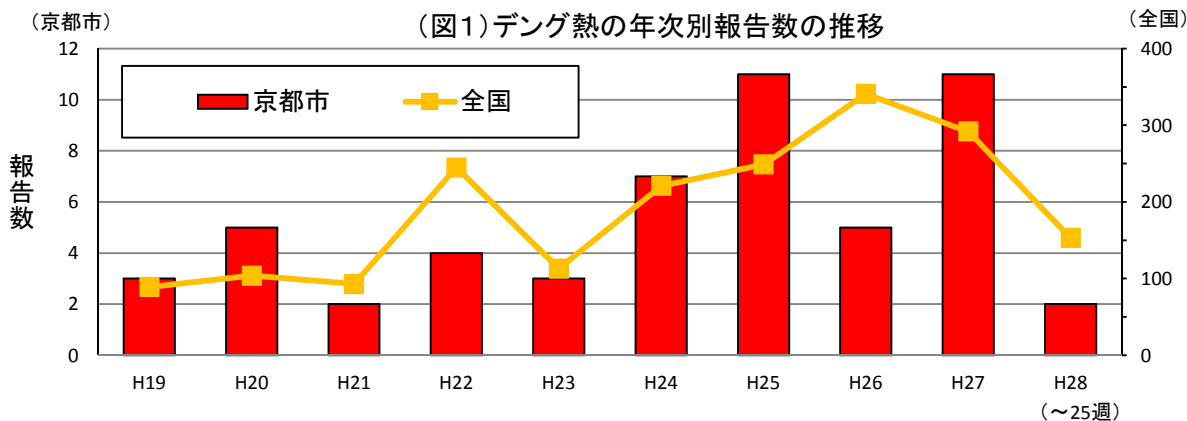
デング熱の発生がある地域はウイルスを媒介する蚊の生息地域とはほぼ一致しており、蚊が年間を通じて活動する、主に赤道付近の地域で多くみられます(図2)。デング熱のワクチンや特効薬はありませんので、これらの地域を訪れる場合は、感染防止のため、蚊に刺されないように注意する必要があります。さらに、デング熱は日本国内に広く分布するヒトスジシマカが媒介することから、輸入症例を起点として国内での感染が拡大する可能性があります。詳細については、以下のホームページを御覧ください。

○厚生労働省「デング熱に関するQ&A」

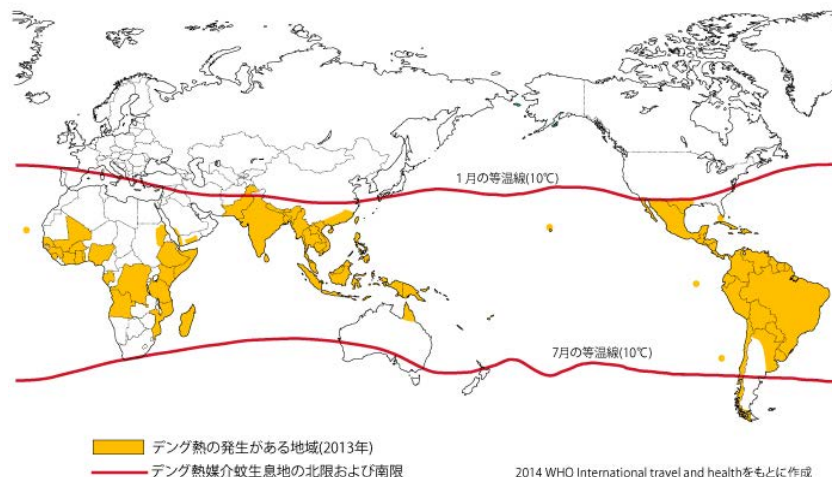
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue\\_fever\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever_qa.html)

## 感染地域で蚊に刺されないために

- 長袖、長ズボン等を着用して、肌を守りましょう。
- 肌が露出する部分には虫除けスプレー等をこまめに用いて、蚊を寄せつけないようにしましょう。



(図2) デング熱のリスクのある地域



※ 検疫所ホームページ(<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name33.html>)から引用(一部改変, 平成28年6月30日閲覧)。

T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成28年第25週

疾病,行政区別報告数

平成28年6月20日～平成28年6月26日

データ入手日:平成28年6月29日

男女合計	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	百 日 咳	ヘルパンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	ク ラミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
北	-	-	2	2	2	-	-	-	-	-	1	2	-	-					
上京	-	-	1	5	5	-	3	2	2	-	2	1	-	-					
左京	-	-	1	7	48	3	5	1	4	-	7	1	-	1					
中京	-	1	-	-	5	-	2	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	1	22	1	-	-	1	-	1	-	-	-					
山科	-	-	-	21	11	1	1	1	3	-	6	3	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	1	3	19	2	4	-	4	-	16	3	-	-					
右京	-	-	4	11	47	1	7	4	1	-	8	8	-	3					
伏見	-	-	2	16	60	1	3	3	3	-	27	15	-	-					
西京	-	-	1	7	32	-	9	4	4	-	12	8	-	-					
京都市計	-	1	12	73	251	9	34	15	22	-	83	42	-	4	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

男女合計	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	百 日 咳	ヘルパンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	ク ラミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
北	-	-	0.50	0.50	0.50	-	-	-	-	-	0.25	0.50	-	-					
上京	-	-	0.33	1.67	1.67	-	1.00	0.67	0.67	-	0.67	0.33	-	-					
左京	-	-	0.25	1.75	12.00	0.75	1.25	0.25	1.00	-	1.75	0.25	-	1.00					
中京	-	0.33	-	-	1.67	-	0.67	-	-	-	1.00	0.33	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	0.50	11.00	0.50	-	-	0.50	-	0.50	-	-	-					
山科	-	-	-	5.25	2.75	0.25	0.25	0.25	0.75	-	1.50	0.75	-	-					
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
南	-	-	0.33	1.00	6.33	0.67	1.33	-	1.33	-	5.33	1.00	-	-					
右京	-	-	0.80	2.20	9.40	0.20	1.40	0.80	0.20	-	1.60	1.60	-	3.00					
伏見	-	-	0.29	2.29	8.57	0.14	0.43	0.43	0.43	-	3.86	2.14	-	-					
西京	-	-	0.20	1.40	6.40	-	1.80	0.80	0.80	-	2.40	1.60	-	-					
京都市計	-	0.02	0.29	1.74	5.98	0.21	0.81	0.36	0.52	-	1.98	1.00	-	0.40	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。



T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成28年第25週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成28年6月29日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1	19	6	6	8	1	-
RSウイルス感染症	-	2	1	1	-	1
咽頭結膜熱	9	11	9	16	11	12
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	99	69	56	82	69	73
感染性胃腸炎	346	332	308	312	250	251
水痘	15	23	7	18	16	9
手足口病	22	22	19	21	26	34
伝染性紅斑	12	8	4	11	12	15
突発性発しん	15	17	18	15	19	22
百日咳	-	-	-	-	1	-
ヘルパンギーナ	19	34	28	46	51	83
流行性耳下腺炎	26	33	35	33	32	42
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	4	4	2	3	4
細菌性髄膜炎 ※2	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4	-	-	-	-	-	-
合計	583	561	495	565	491	546

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1	0.28	0.09	0.09	0.12	0.01	-
RSウイルス感染症	-	0.05	0.02	0.02	-	0.02
咽頭結膜熱	0.21	0.26	0.21	0.38	0.26	0.29
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.36	1.64	1.33	1.95	1.64	1.74
感染性胃腸炎	8.24	7.90	7.33	7.43	5.95	5.98
水痘	0.36	0.55	0.17	0.43	0.38	0.21
手足口病	0.52	0.52	0.45	0.50	0.62	0.81
伝染性紅斑	0.29	0.19	0.10	0.26	0.29	0.36
突発性発しん	0.36	0.40	0.43	0.36	0.45	0.52
百日咳	-	-	-	-	0.02	-
ヘルパンギーナ	0.45	0.81	0.67	1.10	1.21	1.98
流行性耳下腺炎	0.62	0.79	0.83	0.79	0.76	1.00
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.40	0.40	0.20	0.30	0.40
細菌性髄膜炎 ※2	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4	-	-	-	-	-	-
合計	13.78	13.61	12.03	13.53	11.91	13.30

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。